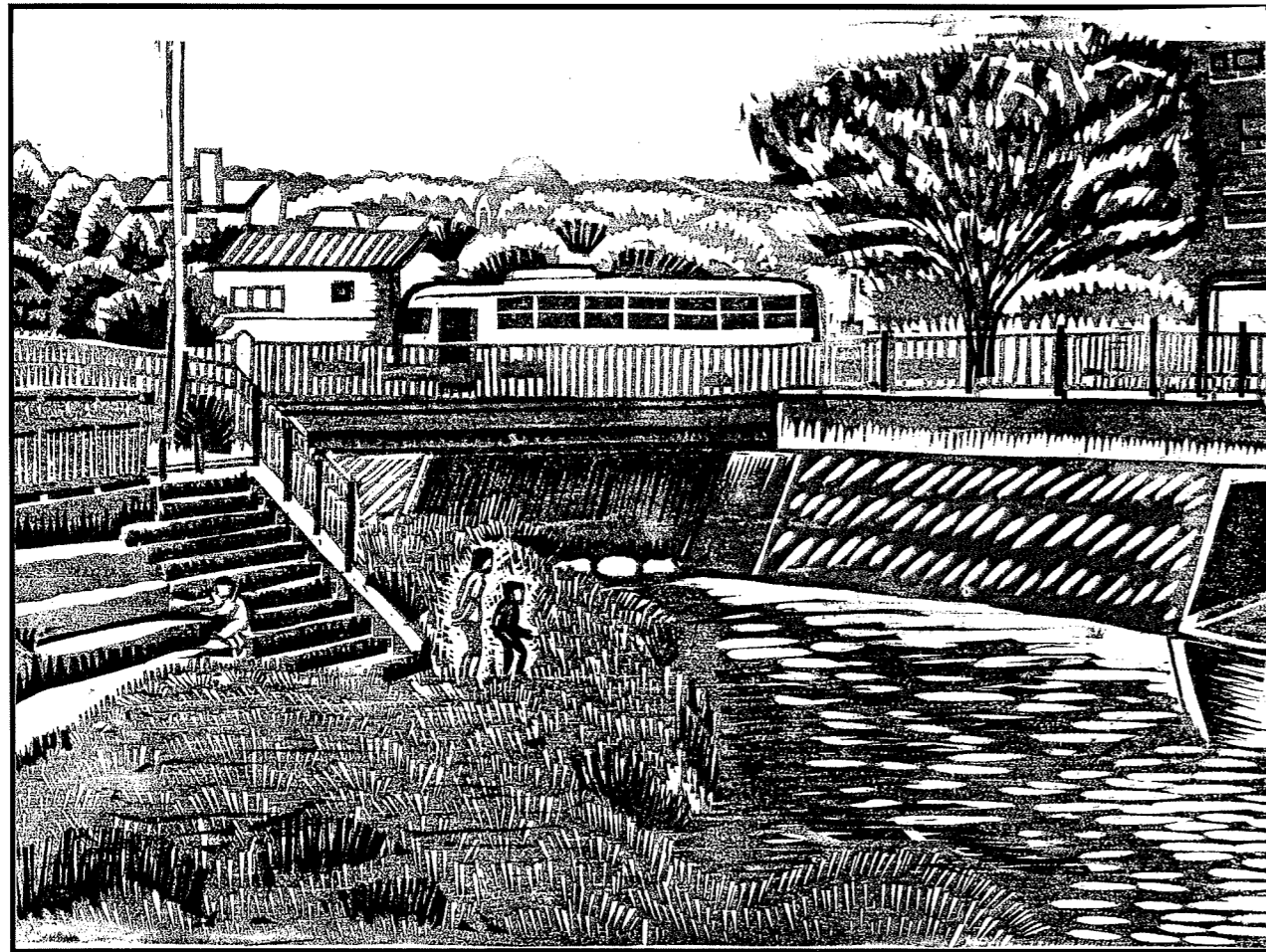


いたちかわらばん

通刊18号

鮎川・狹川・川原番・瓦版 02夏号



版画 宗森英夫

天神橋下流（右端のトンネルは洗井沢川の出口）

切りとり線

学校の活動報告(7)

いたち川大好き!! 犬山小学校より

～稲荷森広場は、私たちの大切な場所。
遊んだり、勉強したり～

私たちの犬山小学校は、上郷市民の森の近く、小高い丘の上にあります。学校の周りはほとんど家で、近くの公園は東公園や亀井公園ぐらいしかありません。学校から、15分ぐらい歩いて、環状4号線の方に向かっていくと、そこには私たちの大好きな、いたち川…稲荷森の水辺広場があるのです。

ぼくたちは、総合の学習でこれから一年間、「いたち川」について、いろいろな勉強をするんだよ。6月に入ってから2回、稲荷森広場に遊びに行ったんだよ。みんな川は大好き!川の中に入って大はしゃぎで、びしょりになった子が6人もいたんだ。家が近くの友だちは、放課後も遊んでいるよ。ぼくたちはこれからどんなことを調べていくか、一人ひとりがしっかりと、課題を決めたんだ。1年後に、調べたり勉強したりして発表会を開くんだ。楽しみだな。そうそう稲荷森広場でつかまえた魚を観察したよ。メダカとは違うみたいで、みんなで図鑑で調べたんだ。教室で飼育しようかと思ったけど、川に返したんだよ。(4年男子)

私たちは、社会科の勉強で学区探検をしています。近くの公園や商店街、地区会館など発見がいっぱいです。そんな中で、私が一番びっくりして、興味を持ったことは、学区を流れているいたち川です。川がこんなにいろいろなことを教えてくれるなんて…。稲荷森広場は私の家からは遠いけど、学校には近いし、自然観察にはもってこいの場所です。植物、魚、虫、石、鳥、…いろいろなことをいっぱい調べていきたいです。そして、教室の隣の「ワクワク観察、生きものランド」に、いたち川の自然ランドも作っていきつもりです。(3年女子)



いたち川、稲荷森広場…これからもよろしくね

愛護会の活動報告(7)

いたち川(新橋～タツノ橋)水辺愛護会より

新橋～タツノ橋・水辺愛護会が、今年4月に発足しました。先輩の天神～新橋・水辺愛護会の熱心なはからいと協力によります。

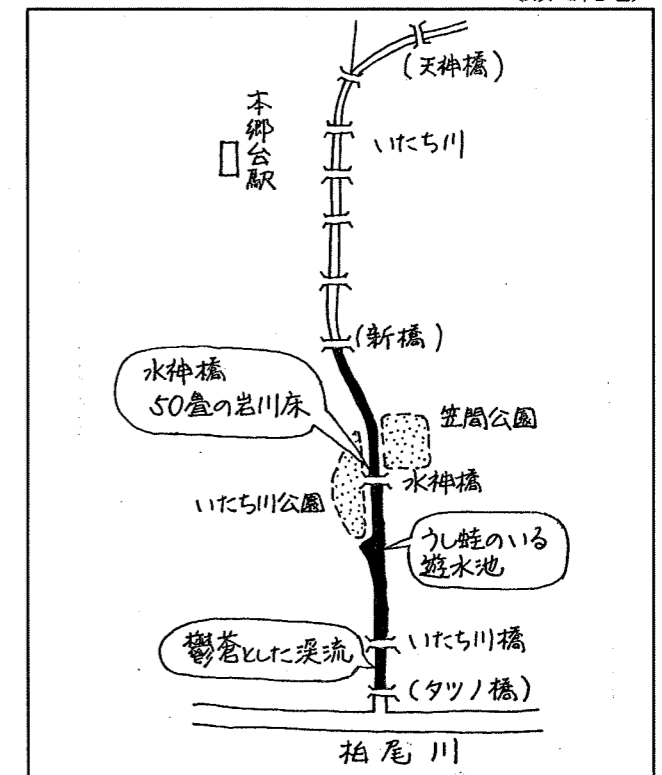
会の目的は「いたち川の環境を良好に保ち、水辺と快適にふれあい親しむことが出来るように美化活動を行い、いたち川愛護の精神を高める」ことです。この目的は、天神～新橋愛護会と同じで、同会と一体となった活動を意図しております。

活動区域はいたち川最下流、新橋～タツノ橋間、約900mの区域です。その間の川と水辺、プロムナードとそばの公園などの清掃と除草、廃棄物の拾集などを行っております。

月に一度の定期活動日を設け、天神～新橋グループと同日、同時刻に用具を共用して活動しております。まだ会員数が少ないため実際の美化活動でも、応援を受けておりますが、一体となって「きれいないたち川」「楽しいいたち川」を目指して活動していきたいと思っております。

川を見るといやされる
きれいな流れを見ると心が澄んでくる
川の鳥や魚や花を見ると元気が出る
だから川を大切にしたい

(飯田礼昭)



天神橋界わい

天神橋という地名をインターネットで検索すると、全国で百箇所以上あることが判る。中でも、大阪市北区の天神橋は、よく知られている。横浜市内でも南区や磯子区にあり、県内では横須賀市や小田原市にもある。地名にあるくらいだから、バス停の名になっている所も少なくない。しかし、栄区の天神橋のように、実際の橋の上にバス停があることは珍しい。

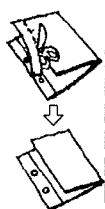
環状4号線(原宿・六浦線)と鎌倉街道がダブル地点なので、交通量も多く、橋の振動も大きい。そのため、近く架け替え工事が計画されているとか。現在の天神橋は昭和六十年に架け替えられており、その前には昭和五年に石橋に架け替えられている(「いたちかわらばん」通刊7号で紹介済み)。

かつて、いたち川が暴れ川といわれていた頃は、大雨の度に洪水が起り、天神橋では上流からの流木がひっかかり、それを引き上げるのが大変な作業だったそう。昭和三十六年の台風の際には、床上浸水の被害が出るほどの災害になった。

今では、河川改修工事が進み、いたち川で洪水が起るなど考えにくいですが、天神橋にはそのような歴史も刻まれている。

今号と次号で、いたち川で起こった洪水について紹介する。(いもり)

この部分を切り取ってファイルすると便利です。



発行年月 2002年8月

(通刊18号)

発行：狹川OTASUKE隊(いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

いたち川氾らんの記憶

昭和30～40年代、流域の急激な宅地開発と大雨が重なって、洪水に襲われた頃のことを、おふた方にお聞きしました。

天神橋付近の洪水災害について思う

最近、郊外・山の手を歩くと、昔はけもの道として歩いたような記憶が残る場所が一変して住宅などに開発されています。

森林が無くなり保水効果もなくなった水量の排水処理対策は大丈夫なのだろうか、そのたびに思い出すのは、数十年前に起こった本郷台一帯のいたち川の洪水災害です。

いたち川が柏尾川に合流するタツノの工場の中央に流れ出している周辺は、昔と変わらないような川幅で一見すると溝川（どぶ川）のようです。整備されたいたち川を見て、まさかそんな洪水が起こることはないかと高をくくっている人、またハイテクの進んだ現在、行政は少なくとも計算し尽くされた計画に基づき、遊水池や別の水路などが用意されていると考えている人も少なくないでしょう。いずれにしても最近の記憶では洪水がないのは、幸いにも特に大きな豪雨がなかったためであろうと想像されます。

当時、中学生だった小生は、真夜中に泳いで知人宅に避難させていただいたことを覚えております。その当時は、雨季になると柏尾川が氾濫し、藤沢・大船駅周辺がそのたびに床上・床下まで浸水してニュースになっておりました。同様に、いたち川ぞいの御宅でも、洪水の被害がありました。

ひとつの例として、数十年前に起こった洪水被害は、今まで経験したことのないような豪雨でした。

近くのいたち川の橋を見に行ったものの、戻る途中、田や畑が見る間に水に浸かっていくので、家にもどり、家族全員で家財道具をなるべく高いところに上げ、さらに畳を上げてその上に箆箆を積み重ねていきました。

しかしながら、みるみる水位が上がり、あつという間に床を越え、箆箆が浮かび上がり、ひっくり返って畳や家財道具が散乱する光景が目には焼き付いております。外は既に暗くなり、敷地のまわりのブロック塀は上部がかすかで見られるまで水没していました。その後に泳いで逃げた記憶があります。

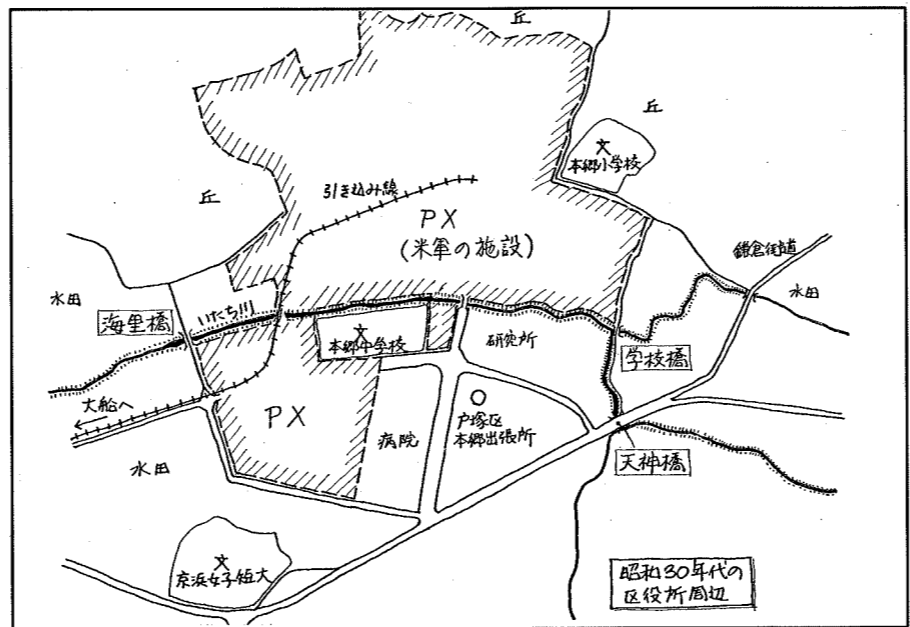
翌日からは、家財道具の整理と家の中を水で洗い流して掃除をして約一週間、学校を休んだ記憶もあります。壁にはくっきりと水位の跡が付き、その高さは、床上1メートル強であったと記憶しております。

その後、周辺の家の増築や新築の際には、洪水に備えて土台を高くしたり土盛りをするようになりました。

今ではその事情を知らない人が多く、不思議な光景に映っていることでしょう。穏やかな清楚ないたち川の側路を歩くと、ふと危機感がわいてくるのは小生だけでしょうか。

これから、行政には、市の領域を越えた責任ある行動と対応および情報公開に期待したいものです。

(いたち川に住む頑固仙人より)



いたち川水害（昭和36年）の記憶

昭和30年代の前半、現本郷台駅前のほとんどは、米軍の日用品・飲食物などの大きなロジスティックセンターでした。我々はここを米軍のPXと呼んでいました。銃を担いだ番兵が、シェパードを引いてフェンスの周りを巡回していました。これらの日用品・飲食物は、貨車で大船駅から、現在警察学校になっているPXの西門の中に運び込まれていました。またここから物資が座間、横田などの米軍基地へトラックで配送されていたようです。

警察学校の前にある自宅から今の柏陽団地の中にありました本郷小学校に通うには、米軍のPXに阻まれ適当な道がなかったため、ずいぶん遠回りをしました。自宅から、いたち川沿いに下って海里橋を渡り、京浜女子大（現鎌倉女子大）の裏を抜け、天神橋へ出て和田医院の前を通り、学校橋を渡って登校するコースでした。子どもの足で半時間ぐらい、道草でもしたら小一時間かかったような気がします。いまだと柏陽団地まで10分もかかりません。

大雨になるといたち川があふれて、川岸の家々は洪水に悩まされておりました。とくに本郷小学校に行くとき、和田医院前の道路がヒタヒタに冠水し、学校橋の上で長靴の中に水が入り大変いやな思いをしながら学校へ通ったものでした。大雨の夜は、いたち川のゴォーゴォー鳴る川音が耳につき、怖い思いをしながらナカナカ眠りにつけませんでした。2年に一度ぐらいいたち川は氾らんしていたようです。

昭和36年（1961）6月の集中豪雨によるいたち川の氾らんは大変でした。川沿いの自宅は20～30cmぐらい床下浸水がありました。あちこちでイヌが泳ぎ回り、私たちは水が引くまで家の中にジッとしているしかありませんでした。天神橋のカドタヤ書店さんは水が敷居まで上がってきたと聞いています。いたち川から水の犠牲者もあがりました。

印象に残っているのは、海里橋の腹部に取り付けられていた水道管が、流れてくる漂流物に破壊され噴水のように水しぶきをあげていたことです。その後水道管は、海里橋と並行に敷設され、新規なアーチ形に復旧されました。

(小菅ヶ谷の田中妙子さんにお話を伺いました) (みっちゃん)

切りとり線

リレトクその十七 「川遊び」を知らない世代に生まれて

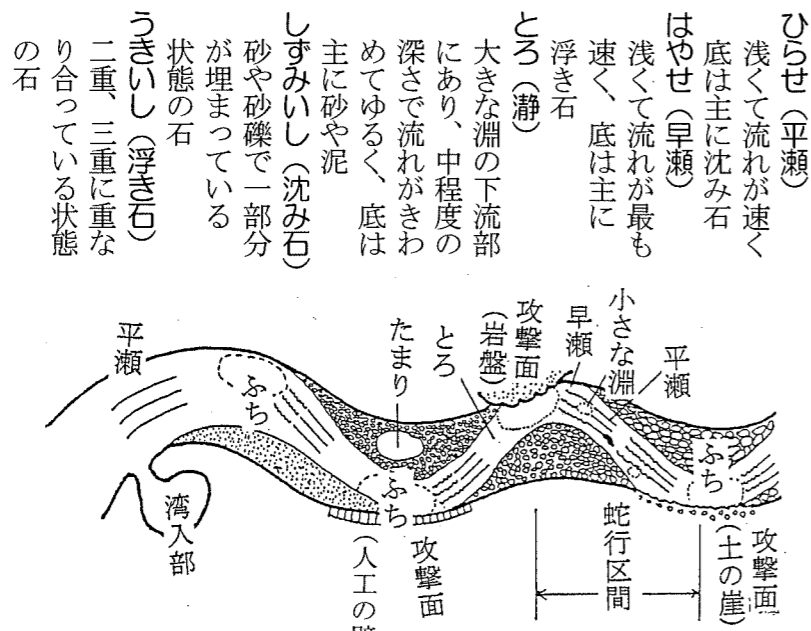
栄区内では、総合学習として「いたち川」に取り組んでいる小学校が数多い。学習とはいえず、子どもたちにとっては「川遊び」的な感覚かもしれない。今から二十年ほど前、僕が小学生の頃には川で遊ぶことは全くなかった。広い原っぱを駆け回り、学校の裏山で底なし沼にはまって大変な思いをしたことはあったが、川で遊んだ記憶は無い。どこか川には「危ないもの」「汚いもの」とする近寄り難いイメージがあったのだらう。そうこうしている間にテレビゲームの時代となり、遊びの中心は野山から家の中へと移っていった。

時は移り、僕は大学に進学した。当時流行の兆しを見せていた多自然型川づくりに興味があり、土木工学科の河川工学研究室に所属した。河川法が改正され、治水・利水・環境のバランスのとれた川づくりが求められている。「良い川」「ふるさとの川」とされ、昔の姿を取り戻そうとする河川整備事業が全国的に行われている。しかし「川遊び」の原体験のない僕には、「ふるさとの川」をイメージすることができなかった。

そう、僕は「川遊び」を知らない世代だったのだ。理論や各地の事例報告などから「ふるさとの川」をイメージすることはできる。しかし、どんなに秀逸なイメージを思い浮かべたところで、昔遊んだ川の風景といった原体験にかなうはずがない。僕はこうした原体験不足を補うため、学生時代からOTASUKE隊に参加している。今のいたち川の姿からOTASUKE隊のメンバーの力を借りて、「ふるさとの川」のイメージを育ててみたい。今からでも原体験を「ふるさとの川」に持つことはできないか。と思っています。(USGすけ)

河川用語の基礎知識 No.11 『瀬』と『淵』

川はゆるやかな曲がりながら流れていきます。これを蛇行(だじょう)といいます。その曲がりの部分は、深く掘れこんだ淵(ふち)ができます。淵と淵の間には、浅くて流れの速い瀬(せ)ができます。この曲がりの直線部分を蛇行区間(だじょうくわん)といいます。



瀬や淵があると、酸素がとけ込み、水温上昇も抑えられます。生き物や水質浄化にも大事です。流れの中に石があると、そこから水の流れが自然に流れに変化が生まれます。いたち川の整備では、そうしたことも考えて石を据えています。(USGすけ)